

高崎健康福祉大学大学院人材養成に係る目的

高崎健康福祉大学大学院学則第3条4により、大学院研究科修士・前期博士課程および博士後期課程における専攻ごとの人材養成に係る目的を次のように定める。

健康福祉学研究科

(修士・博士前期課程)

医療福祉情報学専攻

健康・医療・福祉に関する該博な知識と高度な情報通信技術をもって、健康・医療・福祉分野の情報化を推進することのできる専門的職業人、および医療保健福祉に関わる情報学の教育・研究者を養成する。

保健福祉学専攻

健康・医療・福祉に関する該博な知識と対人援助技術をもって、健康・医療と福祉分野を統合した協働的な保健福祉的援助を実践することのできる専門的職業人、および生物・心理・社会的などの多角的視点を持って医療保健福祉に関わることのできる教育・研究者を養成する。

食品栄養学専攻

食品栄養に関する該博な知識と高度な研究技術をもって、食を通しての人間の健康保持や生活習慣病の予防に貢献することのできる専門的職業人、および先端的生命科学とバイオテクノロジーに基づき食品研究を行う教育・研究者を養成する。

(博士後期課程)

保健福祉学専攻

健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うとともにそれらの分野の専門的人材の育成を担当することのできる教育・研究者、および地域社会のニーズを的確に把握して保健福祉事業を企画・立案し、行政や民間機関の専門職を指導する能力をもつ高度専門職業人を養成する。

食品栄養学専攻

食を通しての人間の健康維持や生活習慣病の予防に関する研究を自立して行うとともにそれらの分野の専門的人材の育成を担当することのできる教育・研究者、および食と健康に関わる高度な専門的業務に携わるために必要な研究開発能力と行政や民間機関の専門職を指導する能力をもつ高度専門職業人を養成する。

薬学研究科

(博士課程)

薬学専攻

臨床現場の薬剤師と科学者という 2 つの着眼点を持ち優れた研究能力を身につけて高い問題解決能力を持つ薬剤師、あるいは医療に高い関心を持つ研究者としてチーム医療のメンバーとして時にはリーダーとして医療体制を提案でき後継薬剤師は元より他のコメディカル専門職の未来のあるべき姿を考えられる医療人の両方の特徴を併せ持つ人材を養成することを目的とする。

保健医療学研究科

(修士課程)

看護学専攻

看護学分野

●他の医療専門職者と連携したチーム医療の中心的存在として活躍できる高度実践看護専門職者の育成

患者・家族の複雑な健康問題の解決・QOL の向上を実現するために、理論と実践を統合し、先端的専門知識と技術を高め、他の専門職と連携したチーム医療の中心的役割を担い、また、地域の保健医療に貢献できる人材を育成する。

●保健医療の課題を解決するためのケアシステムの構築や人材育成を推進するリーダーとしての役割を担える看護管理者の育成

対象の特徴と保健医療の質の向上における課題を踏まえて、対象の自立や QOL の向上に向けた地域包括ケアシステムの構築、チーム医療を推進するための人材育成プログラムの開発や人材育成・管理システムの構築などの活動を担える人材を育成する。

●看護学教育・研究に指導的能力を有する人材の育成

大学における効果的な看護専門職教育ができる人材を育成するとともに、看護学の発展に貢献できる研究能力を備えた人材を育成する。

助産学分野

<助産師養成領域>

●自律的・主体的に助産活動が展開できる専門的知識と技術を兼ね備えた助産師の育成

高度実践助産師を目指して、助産実践における基礎能力と助産実践における研究を推進する基礎的能力を身に付けた助産師を育成する。

●現在の周産期医療・助産の質の向上を推進する高度実践助産師の育成

エビデンスに基づいたアセスメントとケアを自律して実践し、実践上の課題をエビデンスを活用して解決する能力を持った高度実践助産師を育成する。

<助産実践開発化学領域>

●現在の周産期医療・助産の質の向上を推進する高度実践助産師の育成

少子化社会において女性が安心して妊娠・出産・育児ができるよう支援を強化し、助産活動の専門性の拡大を推進できる高度実践助産師を育成する。

●助産学教育・研究に指導的能力を有する人材の育成

大学における効果的な保健医療専門職教育ができる人材を育成するとともに、助産学の発展に貢献できる研究能力を備えた人材を育成する。

理学療法学専攻

●予防理学療法学を推進していくジェネラリストとしての理学療法士の育成

人々の健康寿命の延伸を目指し、疾病予防・障害予防の視点をもって健康教育や介護予防を推進し、豊かな地域生活の創出を推進しながら予防理学療法学を発展させるリーダーとしての役割を担える人材を育てる。

●地域リハビリテーションを担うリーダーとしての理学療法士の能力の開発

社会の変化に対応した保健・医療の質の向上を目指し、保健・医療の課題を解決するためのケアシステムの構築や人材育成を推進するリーダーとしての役割を担える人材を育てる。

●高度な専門知識・技術をもつスペシャリストとしての理学療法指導者の育成

先端的専門知識と技術を基盤として、エビデンスの構築および新たな理学療法技術の開発に取り組める人材を育てる。

人々の自立やQOLの向上を目指し、理学療法実践の課題を解決するための先端的知識と技術を兼ね備え、チーム医療の中心的存在として活躍できる人材を育てる。

●教育・研究能力の開発

大学における効果的な理学療法専門職者教育ができ、理学療法学の発展に貢献する研究を推進できる教育・研究者を育てる。

農学研究科

(博士前期課程)

生物生産学専攻

博士前期課程においては、食と農に関わる諸問題を多様な観点から捉え、その解決に専門的かつ学際的なアプローチを駆使して取り組むことのできる人材の養成を目的とする。

より具体的には、高度な専門的知識とスキルを身につけ食と農の問題の解決ための国際的な活躍、食と農に関わる様々な企業・公共団体ならびに農業関連団体での活躍、あるいは地域社会の活性化への貢献など、実社会において食と農の高い専門知識や能力が求められる職務を遂行する人材を養成する。加えて、さらに高度な研究に取り組むために博士後期課程へ進学し、より先端的な研究を志す人材を養成する。そして、それらのいずれにおいても課題解決に寄与するのみならず、リーダーシップを発揮して主体的に取り組む

人材の養成を目指す。

(博士後期課程)

生物生産学専攻

博士後期課程においては、博士前期課程の学修で身に付けた学識と研究能力、あるいは実務で得た知識・技能・経験を基盤とする。そのうえで、研究者として国内外の大学や公的研究機関で、食と農に関わる国際的な水準の創造的研究を行うことで学問・科学の発展に貢献できる人材、民間企業等の研究部門等で活躍し、農業および食品産業の振興・発展や人類の健康と幸福の増進に貢献する人材、自然科学及び社会科学の両側面から食と農を中心とした地域活性化に資する研究や実践に取り組むことのできる人材を養成する。そして、それらいずれにおいても食と農に関わる諸課題の解決に必要となる新奇で独創的な知見や技法を発見・開発することのできる人材の養成を目指す。